



秋のカビにご注意を！

暦の上では秋ですが、まだまだ暑いですね。9月は雨が降りやすく、湿度が高い日が多いため、梅雨と同じくカビが発生しやすい時期になります。

カビが発生するための条件には大きく3つのポイントがあります。

- ① 温度 種によるが20～35℃
(25℃でもっとも活発)
- ② 水分 種によるが湿度60～100%
(80%以上で活発)
- ③ 栄養 有機物(汚れやホコリ)が存在

ほとんどのカビはこれらのうち一つでも抑えることができれば発生を予防することができます。しかし、汚れの全くない環境を作ることは難しく、カビの適温は私たちの過ごしやすい気温と同じです。そのため、人が生活しているところでコントロールしやすいのは「除湿」になります。

除湿にもっとも効果的なのはエアコンです。空気中の湿度を下げるには「空気循環」も重要なのですが、エアコンは空気循環を行いながら除湿を行うことができるため、効果が高いです。除湿機も同様に効果的ですが、水タンクの定期交換の手間がかかります。

また、これら除湿機器自体に発生するカビにも注意が必要です。これら機器の作動後は内部に水滴が付着しているためカビの発生しやすい環境が整っています。使用後は送風や内部乾燥機能を使い、機器内をしっかりと乾燥させましょう。

湿気がこもりがちな水回りや押し入れ等では、サーキュレーターにより湿気を分散させることで安価にカビ対策ができます。除湿機器と組み合わせるとより効果的です。



図1 モルテスによる施工前(左)と施工後(右)の様子

ここまでカビの発生予防についてお話ししましたが、すでに生えてしまったカビに対しては清掃で除去する他ありません。今回ご紹介する「モルテス」は3種の液剤を使い、殺カビ・漂白・防カビを行う新商品です。1液目の酸性薬剤で殺カビを行い、2液目のアルカリ性薬剤でさらに殺カビと漂白、最後に3液目の光触媒機能付きの抗菌剤をコーティングすることで防カビを行います。カビ除去後は半年～年1回程度の防カビ施工で維持が可能です。また、処理後は中性となるため洗浄は不要。薬剤成分の安全性が高いので食品工場でも使用しやすい薬剤です。

弊社ではカビの状態や清掃面の素材に応じて適切な方法で清掃を実施しています。カビの予防や清掃に関するお悩みはお気軽にご相談下さい。

今月の豆知識

秋の虫の「声」



秋の虫といえば、コオロギやスズムシを思い浮かべるでしょうか？秋の夜長、きれいな音色が聴こえる季節になってきました。今月はそんな虫の「声」の話です。

みなさんは虫の鳴き声を「声」と「音」どちらに感じるのでしょうか？実は日本人(とポリネシア人)は虫の音を「声」として聞くのに対して、外国の人は「音」として聞くことが研究で分かっています。この違いは幼児期に学んだ言語の影響が大きいと言われていています。日本語(やポリネシア語)の環境で育った人は耳で感じた音を左脳(言語脳)で、その他の言語環境で育った人は右脳(音楽脳)で処理するようになります。そのため、外国では虫の音は騒音だというイメージが強いようです。虫の声に風情を感じられるのは私達の特権かもしれません。

外国にはその鳴き声を失ってしまった虫がいます。コオロギです。コオロギのオスは両翅にあるギザギザした突起をこすり合わせることで鳴いているのですが、ハワイに生息するナンヨウエンマコオロギの多くでその特徴が失われて平らな翅になり、鳴かなくなっていることが分かりました。原因は寄生バエだと言われています。このハエはコオロギの鳴き声に誘引されて幼虫を産み付け、コオロギを死に追いやり、この恐怖から逃れるために進化した姿が「鳴かないコオロギ」というわけです。

秋の夜長、本人たちは一生懸命に鳴いています。ぜひ一度立ち止まって、その「声」に耳を傾けてみて下さい。